

本年度アカデミー賞主要4部門独占受賞！(最優秀作品賞)(主演女優賞)(脚本賞)(監督賞)



＊ああ…アニーはいま何処に
オレと別れたあとで
愛していたと気がつく
バカなやつ……

"ANNIE HALL"

アニー・ホール

ウディ・アレン ◆ ダイアン・キートン ◆ トニー・ロバーツ
＜カラー作品＞

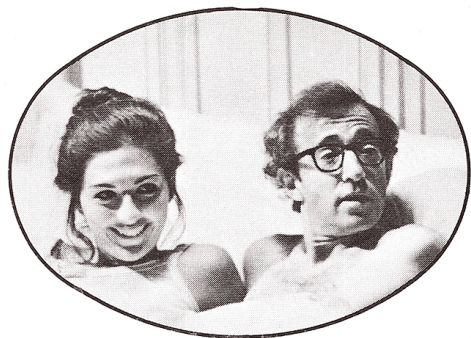


監督ウディ・アレン ■ 製作チャールズ・H・ジョブ ■ 脚本ウディ・アレン/マーシャル・ブリックマン ■ 撮影ゴードン・ウィリス ■ ユナイト映画 United Artists
A Time Warner Company

＜カラー作品＞

アニ・ホール

ユナイト映画 United Artists
A Transamerica Company



◆スタッフ

監督……………ウディ・アレン
製作……………チャールズ・H・ジョフ
脚本……………ウディ・アレン
……………マーシャル・ブリックマン
撮影……………ゴードン・ウィリス

◆キャスト

アルビー・シンガー……………ウディ・アレン
アニ・ホール……………ダイアン・キートン
ロブ……………トニー・ロバーツ
アリソン……………キャロル・ケーン



***この夏、ニューヨークつ子を
熱狂させた傑作ラブ・コメディが
やつてきた！**

ニューヨーク・イーストサイド、現代。アルビー・シンガー（ウディ・アレン）は一見風采の上がないひょうひょうたる都会人種だ。やることなすこと本人の意志に反してずつこけることしばしばというこの若者、ところがなぜか女の心にはモテモテなのだ。積極的な努力なんぞしなくても、その周りにはいつも数名のガールフレンドがウロウロ。このご面相と容姿でなどと言つなかれ。アルビー君ちよつとしたプレイボーイなのだ。どうやら彼の底抜けのやさしさが女性のハートをうつらしい。

そんなある日、彼はテニスを通じて一人の美人に本格的に熱を上げてしまった。アニ・ホール（ダイアン・キートン）。年の頃20代も半ばだろうが。歌手志望だという彼女は頬をよぎる春風のようなムードを持ち、ユニークな生き方をしている。アニーと知り合つてアルビー君、少々意識が変化してきた。

アニーが自分に対して積極的なのをいいことに、男として格好をつけ始めたのだ。ところが……

***ホロ苦い都会の恋を謳い上げて
笑いの鬼オウディ・アレンが遂に
チャップリンを凌いだ！**

神経過敏な都会で生き抜いてゆくしたたかな男と女の姿をユニークなタッチで描いた監督・脚本・主演のスーパー・コメディアン、ウディ・アレンの最新作。特にラスト、主人公のアルビーがアニーと別れ、そこで初めてアニーの素晴らしさをしみじみ味わう件りが、チャップリン映画に匹敵するタッチと全米各紙・誌は大感激。全米興行は二ヶ月でなんと二千万ドルという大ヒットになった。
共演はアレン・コメディのヒロインであるダイアン・キートンがアニーに扮して好演。

さらに「ゴッドファーザー」の撮影ゴードン・ウィリスが西70丁目のナイトクラブ「グランド・フィナーレ」ダウンタウンの「シーポート・ミュージアム」などマンハッタン風物を巧みに捉え雰囲気盛り上げている。

***W・アレンの最高作、
類いまれなラブ・ストーリーと
全米マスコミは大過熱！**

「とてもなくおかしい映画。これを観れば生きていることの喜びを心の底から実感するだろう」

「エドウィン・ミラー（セブンティーン）」

「かつて目にしたロマンチック・コメディの最高作。数10カラットのダイヤモンドのような輝きを放つ作品」——バーナード・ドルー（ガネット・ニューヨークズペーパーズ）

「アレンの最高傑作。上質な情感を備えたラブ・ストーリーであり、同時に涙のコメディでもある。必見の娯楽映画だ」——チャールズ・チャンプリン（ロサンゼルス・タイムズ）

「ウディ・アレンの斬新な試み。これは突き刺すような甘さと悲しみとおかしさをとりまぜたラブ・ストーリーだ」

「ペネロピ・ギリアット（ザ・ニューヨークカー）」

「とにかくこれまでのウディ・アレン映画の最高作。名状しがたい感動がある」

「アンドルー・サリス（ビルリッジ・ボイス）」

「暖かく誠実な情感に満ちた作品。映画の終わりで、失うことの深い意味を必ず悟るだろう。グラー・ホールは夢線に触れる映画だ」

「キャスリーン・キャロル（ニューヨークデイルー・ニュース）」

「この作品でアレンはコメディアンからユーモリストへ、コメディ作家から諷刺家へ、そして才気走った映画屋から真に創造的な芸術家への転身を完遂させた」——ジュディス・クライス（サタデー・レビュー）」

「最高のおかしさで迫るヒューマン・コメディの傑作」
「フランク・リッチ（ニューヨーク・ポスト）」

**アカデミー賞受賞記念 5月13日(土)より
特別ロードショー**

特別鑑賞券1000円（一般1300円、高校生1100円の処）**絶賛発売中！**

渋谷 **パルテオン**
(407) 7219

新宿 **ミラノ座**
(202) 1189

■上映時間 連日 11:30 1:30 3:30 5:30 7:30